

さみしい夜の句会報 第108号 (2023. 3. 12-2023. 3. 19)

- ◆ 参加者：うめたかな、萩原アオイ、<sup>1</sup>Re、おかもとも、石原とつき、太代祐一、しまねこくん、秋鹿町、小沢史、西脇祥貴、嶋村らび、むくみんママ、屑乃ハコ、霧島あきら、片羽 ane 雲雀 sak、おひたし中田、tuturo、元さん、凧ちひろ、西沢葉火、海馬、とるぼとる、夜間戦闘、しるとも、藤井卓、式定住佳、馬勝、上崎、たろりずむ、菊池洋勝、みさきゆう、鷺沼くぬぎ、くさか、花野玖、何となく短歌、透影弦、のんのん、ばさ、水の眠り、みおつたかふみ、元さん、みくたん、<sup>2</sup>anous、<sup>3</sup>やー、Tanoko、<sup>4</sup>Ryu san、雪の空SO<sub>6</sub>At、涼閑水の眠り、雷(らい)、こたろう、日下 昊、石川聡、モンモン、かのん、鴨川ねぎ、蔭一郎、水也、みくたん、<sup>5</sup>Nichtraucherden、和泉明月子、もゆら、えみ、山田真佐明、海月漂、上峰子、ひなとど、ひとつぶ、KBlab、鍛冶師、小松 百合華、星野響、ゆりのはなこ、思雨(スレ)、まつりへきん、<sup>6</sup>nine、影薄幸直美、高良俊礼、輪井ゆう、おはな、秋鹿町、Tatsuo Kanase、月硝子、鷹緒、抹茶釜魚、みつきい、天やん、宮坂愛哲、東ころ、ついうた、スキンヘッドカメラ岡本ツマモヨコ、紅志野パワーみのり、月波厚生(九五名)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

足枷の足ゆびに散る夕ざくら 海馬  
メランコリー・術学・メリーゴランド 海馬  
残業の悲しみだけは個人蔵 みおうたかふみ  
背鰭から左が海で右は雨 西沢葉火  
雲梯をつかみそこねるいくらし 西脇祥貴  
骨格が良いな 丸揚げにしたいな のんのん  
バッテリーで選ぶ乗り換え案 水の眠り  
かほりたつ萼の根元に蟻の来る 屑乃ハコ

恋人がいるのに地動説ですか 蔭一郎

濁点の酔いが足りない昼下がり 西脇祥貴

〈持ち物〉のマスクを二重線で消す さー

電波法上@は春の水 Ryu\_sen

出産に立ち会わされてしやぼん玉 しまねこくん

引き分けを挟んで十二個のミモザ しまねこくん

終電をいつか詩になる距離感で 上崎

この国の体温として暮らしてる おかもとかも

とりあえず鏡にだけは打ち明ける おかもとかも

廃屋で斉藤工匂いたつ 水の眠り

同罪にしたくて針を刺し直す のんのん

間違えて硝子の爪を切っている くさか

出しやばつて来いよ三色堇なら しまねこくん

マレモン薄めて苦いしやぼん玉 鷺沼くぬぎ

白菜の水だけで炊く魚かな 菊池洋勝

保健室の鍵が閉まっついて怖い たろりずむ

戦争が廊下走つて叱られた たろりずむ

やわらかな鳥居を心臓に建てる 上崎

神様が神だと名乗る電話口 しろとも

右折してまだ心臓を抜け出せず 秋鹿町

桜がここに落ちるから物理学 夜間戦闘

主語からの切った張ったに建つ遺跡 高良俊礼

素早さの国であなたと待ち合わせ 太代祐一

ぴかぴかのいちごスプーンで掬う父 小沢史

ゼウスの子だけで貸し切る夜行バス 霧島あきら

眠れない眼をブルーライトで焼いている sakm

やさしそう知らない家の下向きの花 藤井卓

君が居るただそれだけで日曜日 弐定住佳

朧夜に虚無を遊ばす肉の檻 馬勝

こもれびや春の妖精さんざめき 花野玖

雨模様 お口の中も 飴模様 みくたん  
メロディは四季折々に開く花 *saionara*  
連翹の二つ三つなど咲き初めぬ *Tomoko*  
胸を抱き駅のベンチに影ひとつ (涼閑)  
胸を抱き駅のベンチに影ひとつ 涼閑  
ボロしか出そうのない口閉じ 雷  
連翹やベンチ湧き立つノアアウト こたろう  
ケムトレイル春はこれからと入彼岸 日下晃  
あなたも笑って鍋の薺の鮮やか 石川聡  
ひとりでも 柔く連なる ミモザの黄 かのん  
春風にはろほろ崩る我が心臓 鴨川ねぎ  
大谷君 今日も待ってる ホームラン みくたん  
ことばは届かないまま夫婦でいる 和泉明月子  
ねえここで命の水踊りしてよ えみ  
闇ダレでハンバーガーを舂めかし 山田真佐明  
巡礼の道を進むは猫ばかり 海月漂  
ん寄りにいますラナンキュラスより 上峰子  
春の夜の闇の深さに我を忘れる *KBL:ib*  
白鳥も詩的飛躍も北帰行 星野響  
手を離しても大丈夫 君は卒業 思雨  
雨垂れは少し頭が痛いです まつりぺきん  
夜の中ふとすれ違ふ沈丁花 輪井ゆう  
落ちましたよと差し出される踝 秋鹿町  
屋根裏のハイジのベットなら寝れる *Tatsuo Kanase*  
温かな便座に座り国呪う 月硝子  
アイロンかければ流石に気づく痣 抹茶金魚  
さみしいと伝えられないさみしさよ みつきい  
鳥帰る午前五時発どこか行き 天やん  
恋人の声艶めいて春の嘘 東こころ

ガラパゴスケイタイ略し黄水仙 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

ぼっぼるぼぼっぼるぼると鳴いている名も無き鳥よ名付けられるな みさきゆう

思ってた味と全然違ってた幸福なのも気のせいだった

line

枯れ木に花を咲かせたら海に青を戻しましょう 朽ちた大地に モンモン

ひとつだけなまはずれがありますと問題文はさらりと告げて たろりずむ

あんなことやこんなこともできますと慣れた感しで来るドラえもん たろりずむ

あさがくるまえにないふをふりあげてだいやもんどをたたききるゆめ ひとつぶ

まだ上手く泳げないから沈んでく好きな言葉を欲張りすぎて ひなとと。

大江戸線よりも深い傷なんてないと思っていた若いころ 萩原 アオイ

何者にもなれぬままで夜走る母ショート我的祝福よあれ おひたし中田

所在不明 経路検索できぬ駅行き過ぎてからそれと知る駅 何となく短歌

魂を抜かれるという迷信のありて組閣の記念撮影 たろりずむ

そんなもんなんぼあってもいいですよ窓際の猫、助手席の 犬 おひたし中田

シガレットガム「その場しのぎよね」だから? 「血液型を 教えてよ」 石原とつき

小舟でもネーミングライツ持っている未来の子どもは僕を 知らない うめたかな

医者が言う食べ過ぎちゃだめですよ物も買えずに何が楽しい。 Take

現実の海をキレイに切り取ったブルーライトに恋をしたのだ 嶋村らぴ

久方ぶりにあったあの人は照れたように若々しい！と呟いた。 む〜みんなママ

子守歌が途切れた夜どうせまた声を殺して泣くデイベア 片羽雲雀

不条理の苦しき日々を嘆くより闇から逃げず未来へ向かう future

目もくらむネオンライトの眩しさと視線が戻りそこにはいない 元さん

短歌などつぶやいてみてどうするの言葉綴るの好きなんだ ぼくら 凧ちひろ

赦されるとは思わない過ちをあなたは何も咎めたりせず とるぼーる

寝れぬ夜を照らす月さえ臆気で時の流れも引き延ばされて 透影 弦

しつこくもてすにあふくよのそらをあらしすきゆくかせ もおもひも ばさ

大きめのブレザー袖を折り返す昔は芋を詰めていた君 さ

裂傷に塩とたらふく酒を浴び死んだ目玉と生きるゼラチン 雪の空 *SOEJA*

ねむれない夜にベッドの上でみる、みずうみには赤いラメが舞う 水也

いつもより開花予報が早いのは気候変動不吉な知らせ Niechtraucherchen

はらがなる夜中のテレビ飯テロに我慢できずにチョコレートを口にする もゆら

寂しさが 会う喜びを 保つコツ孤独は人を 甘くする塩  
鍛冶師

蓮根の穴からギョツと溢れ出るひき肉だけが友達だった  
小松 百合華

朧夜にお父ちゃんから万引きの仕方を習う僕は5才児 ゆ  
りのはなこ

桜咲くただ一輪に期待こめ華やかさの裏流す涙も 影薄き  
直美

欲望を枯らしたくて呑み込んだ涙を海に返すときが来た  
おはな

春の雨はか細く白くどれも皆断ち切られた運命なのだ 鷹  
緒

失恋の歌が心に沁みてきてあなたのことを思い出してる  
宮坂変哲

◆ 詩

提出された作品はありません。

◆ 作品評から

やわらかな鳥居を心臓に建てる 上崎

くさ・さ・り・ま・す……!!!! 本来やわらかい心臓  
をすぐそばに置きつつ、鳥居の方をやわらかくしてるから  
ちゃんとやわらかいんでしょうか。硬さの対象物を置いて、  
立てる。。そして「建てる」。立てるでなく。人工のみなき  
んの汗まで見えるようです。(西脇祥貴)

甘エビの寿司に跨がる無免許で 霧島あきら

「無免許で」が可愛らしい。この可愛らしさが寿司ネ  
タの「甘エビ」とじょうずに響き合っている。(月波与生)

大江戸線よりも深い傷なんてないと思っていた若いころ  
萩原 アオイ

「すごく良いです！（ついうた）」

背鰭から左が海で右は雨 西沢葉火

「好きです（小沢史）」

「はきつとあなたが好きだからまず小指から食べるのだ  
ろう 蔭一郎

「自分の人格を模倣した」が目の前に現れたら初めて  
自分の声を録音機で聞いたときの何十倍も不快だろうな。  
死にたくなるくらい。（月波与生）

お茶漬けはお茶目線だと苦情あり 霧島あきら

「お茶目線」いいですね。おもてなし目線というか。  
それでも苦情がある現代、「お茶漬け」すら味わえません。  
（月波与生）

戦争が廊下走つて叱られた たろりずむ

「僕俳句わからないですけど、なんかすごいいいと思  
いました！（スキンヘッドカメラ岡本）」

あんなことやこんなこともできますと慣れた感じで来るド  
ラえもん たろりずむ

「す、すきです！「慣れている」とかじゃなくて「慣れ  
た感じ」で来る」のが臨場感ありますね（ツマモヨコ）」

「面白い、好き。（紅志野。パワーみのり）」

とりあえず鏡にだけは打ち明ける おかもとかも

「誰もわかってくれないし、自分だって自分のことなん  
てわからないような気がします。」

でも、それでも、思いを言葉にしてみることに、意味はあると思うのです、とりあえず。(まつりへきん)

「盲腸にルビふつてみたの」なんて？「住めば都。ギリギリセーフかな」体育館裏 石原とつき

「石原とつきさんの作品はいつも会話しているが噛み合っていない。これはギリギリセーフらしいがなんのこっちゃである。(月波与生)

指先に砂漠の柔らかさが見える 藤井皐

「砂漠の柔らかさ」を予感させるものが希望めていい。それが「見える」とはなんと美しいこと。(月波与生)